

福岡女子大学 同窓会

第83号



筑紫海会会報

新事務局 福岡女子大学附属図書館内 TEL (092)671-6360 FAX (092)692-9185



絆の糸の縫りを強める

筑紫海会会長 山本津弥子(大8回)

「今日あるのは福岡女子大で学んだからなのよね。」H24年度のある支部総会での先輩の言葉です。支部総会で「大学の現状」をお話した後の懇談会で聞きました。

「大学で、学んだ学問がすぐに役立つものではないけれど、地に足をつけて生きる基本のようなものを学んだような気がします。」と付け加えられました。

福岡女子大学は、90年の歴史の中で、その時代が求める女性―あるときは「男女平等」を勝ち取るために、ある時は「女性の地位向上」に実力発揮―を輩出してき

ました。そして21世紀。新生福岡女子大学、「次代の女性リーダー」

平成24年度 総会報告

総会は5月27日(日)西鉄グランドホテルで128名出席のもと、開かれた。

開会の言葉、物故者への黙祷に続き、山本会長から事務局移転の件、生涯学習講座や国際化交流など大学の事業に積極的に参加したこと、報告、年次会費納入協力依頼があった。

議事
1、平成23年度事業報告
かすみ祭にあわせた同窓生ツアーの実施、名簿発行委員会の発足と活動について
2、平成23年度会計決算報

新しい事業として

・留学生との交流
「日本の新年を知ってもらうホームステイ」を行います。詳細は5面に掲載。

・生涯学習事業
生涯学習部が大学の事業

さてH24年度の会務の力点は、

に積極的にかわること。10月には秋枝蕭子先生、1月には高樹のぶ子氏の講演が予定されています。

支部との交流を深める「同窓生ツアー」に!!

H22年度は、長崎支部との交流でした。H24年度は、北九州支部との交流です。



定例理事会風景

多くの会員の参加を期待しています。

大学では、ホーム・カミング・デーとして「卒業生が学校と繋がる、大学に目を向け関心を持つ、教育を見守る、何かアクションを起こす」ことを目的に行事

北九州再発見 バスツアーのお誘い

北九州支部とのタイアップ企画で同窓生ツアーを行います。多くの方のご参加をお待ちしています。

日時 10月17日(水) 9:00~16:00

- ・集合時間 9:00
- ・集合場所 小倉駅新幹線口向いKMMビル前
- ・スケジュール
TOTO小倉第一工場(ウォシュレットが機械遺産に指定)
歴史資料館見学→平尾台自然の郷にて老舗料亭のお弁当で昼食→無法松酒造見学
- ・参加費 2,500円(弁当代含む、集合場所までは自己負担)

申込締切日 10月10日(水)

申し込みは、住所・氏名・卒業年次・勤務先を明記の上、FAX・ハガキ・メールで事務局(6面参照)へ☆見学者名簿を事前にTOTOに提出します。参加希望者には後日詳細をお知らせします。

総会当番を終えて

当番委員長 江島 玲子(大21回)

総会に参加されました皆様には、ご多用の中有り難うございました。

当日は天気にも恵まれ、予定通りの参加者の出席を得て始めることが出来、和やかな雰囲気の中、進行し終了しました。

実行委員会では複数回の会合を重ね、準備をして参りました。行き届かない部分もあったかと思いますが、ご容赦いただきたいと思います。

平成25年度 筑紫海会総会予告

日時: 平成25年5月26日(日)
11時~15時

場所: ヒルトン福岡シーホーク
(ヤフードームとなり)

会費: 7,000円

新会員(25年卒業生)は3,000円

当番: 大学23・24・43・44・59回生

*会場が変更になっておりますので
ご注意ください。

詳細は5月発行の84号をご覧ください。
多くの会員の皆様のご参加をお待ち致しております。

波紋



▼「宮内先生ですよね?」

教職員を対象にした染色講習会での思わぬ出会い。女子大での染色の講義は難しく、卒業して十数年後に習った草木染めは衝撃的でした。

▼植物を煮出した染液に充分浸し、媒染剤につけた瞬間に色が現れるときは、ぞくぞくとするほどの感動です。その後、せいたかあわだちそう、マリーゴールド、ヨモギ、玉ねぎ...といういろいろな植物をためし、仲間

で染色教室をしたり、その魅力にとりつかれてしまいました。▼染織家志村ふくみさんは「植物のいのちをいただく」と言われます。

桜は花が咲く前の枝で染めると美しいピンクに染まるそうです。寒い冬に蓄えた命そのものの色といえそうです。夏、道ばたの草木を覆う葛の葉は初夏に染めると、みずみずしいみどりに

なりますが、秋の終わりに染めると、茶色っぽくなります。植物の命を感じる時です。▼草木染めの布同士を組み合わせてパッチワークをすると、不思議と調和します。自然の力でしうか。

▼染めることも作品をつくることもとても楽しい作業です。そのとき物作りにと

らわれていく私があります。(宮内先生は平成17年9月に逝去されました)

二羽喜代美(大18被)
長崎支部

国際化推進基金の活用状況について

福岡女子大学国際化推進センター長
向 井 剛

本学の国際化推進基金へ多くの御寄付を頂き、誠にありがとうございます。ご存知の通り本学は現在、大学の国際化に取り組んでおります。国際化推進基金を活用して実施いたしております海外語学研修等及び交換留学はその中核をなすものです。平成23年度の1年間に、海外語学研修等1か月未満のプログラムへ119名、半年から1年間現地で学ぶ交換留学へ11名の学生を派遣いたしました。(下図派遣先一覧参照)

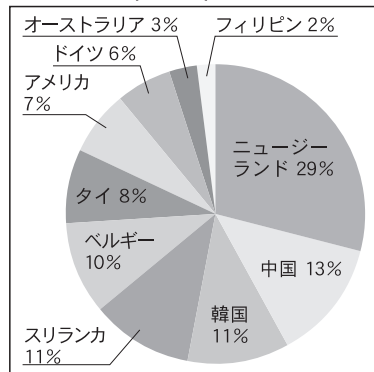
本学の海外語学研修には、将来の自分自身と国際社会との関わりを理解し、何を在学中に学ばねばならないかに「気付く」仕組みを複数導入いたしております。また、語学研修に参加した学生が、その後半年から1年間の交換留学を希望するケースも多く見られます。学生たちが、語学研修から交換留学へと歩みを重ねながら、国際的感性を備えた次代の女性リーダーへと成長してゆくことが期待されています。

<派遣先一覧>

交換留学(11名)

国名	大学名	派遣者数
スウェーデン	ルンド大学	3
ベルギー	ルバン・カトリック大学	3
大韓民国	梨花女子大学	2
中国	同済大学	2
デンマーク	コペンハーゲン大学	1
合計		11

語学研修等(119名)



麻生前知事の基調講演

4月22日(日) 大学会館において、開学記念式典が開催されました。平成23年に新たなスタートを切った本学の教育理念を広く周知し、地域の方々の理解を得ること、また同窓会・大学関係者等が連携して大学の発展に寄与することを目的とした行事として、初の開催です。「ホーム・カミング・デイ」として、第1回目の開催は、多くの来賓の方々と、同窓会関係者や学生等約300名の出席を受け、盛大な式となりました。

開学記念式典

第1部は、大正12年に全国初の公立女子専門学校として開校された大学の歴史を振り返る貴重な映像とともに始まりました。来賓挨拶に続いて梶山学長より、現状と将来構想についての説明。また麻生前知事による基調講演では、「福岡女子大への大いなる期待」を込めた熱い語りに入りました。その後教職員・学生の表彰と筑紫海会旧会長への感謝状授与等が行われ、



第9代 福田会長



第8代 光石会長

最後は校歌斉唱で閉式となりました。さらに第2部として、マンドリンクラブの演奏の中、学校法人筑紫海学園より贈呈の記念像(文化勲章受章者中村晋也氏作「命よ」)の除幕式が行われました。

福岡女子大学
100周年記念事業のご案内

(公)福岡女子大学は、1923年4月の福岡県立女子専門学校の創立から数えて、来る2023年に創立100周年を迎えることとなります。これに係わる記念事業推進のためのワーキングチーム(準備室)を発足いたしました。

今後、百年史編纂を含む種々の事業を実施してまいりますので、同窓生・卒業生の皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ先

福岡女子大学 経営管理部 総務班
TEL: 092-661-2411 (代表)

平成25年度 福岡女子大学
開学記念式典 &
ホーム・カミング・デイの
ご案内

平成25年4月20日(土)

詳細につきましては、支部長・クラス委員の方々を通じてご連絡させていただきます。

特別講演会のお知らせ

ビッグニュースです。今年度から筑紫海会と大学共催で特別講演会を開くことになりました。その第一弾として、秋枝先生と、作家の高樹のぶ子氏の講演会を開きます。二つの講演とも、貴重な機会です。ぜひ、ご参加下さい。参加費無料。

下記 **お問い合わせ先** にお申し込み下さい。



2010年 宮崎宮花庭園にて

「後に続く女性のためにー私の歩いてきた道からー」

秋枝蕭子先生講演会

平成24年10月24日(水) 14時40分～16時10分

会場 福岡女子大学視聴覚室

先生は、女性学の草分け的存在として活躍をされ、女子大で38年間教鞭をとられました。今年92歳をお迎えになりましたが、かくしゃくとしたお姿で、昨年のラジオ深夜便(NHK平成23年6月20日・21日放送)では、大きな反響を呼びました。今回は、先生の人生を振り返りながら、「後に続く女性」のためにエールを送って下さい。

「アジアへのまなざし」(仮題)

高樹のぶ子氏講演会

平成25年1月12日(土) 14時30分～16時

会場 福岡市中央区天神アクロス福岡国際会議場

大学を飛び出して、天神で開催します。福岡市在住の高樹氏は、芥川賞を始め、川端康成文学賞など多数受賞。日本を代表する作家です。今回は、アジア10ヶ国を周られた体験を元に、「アジアへのまなざし」を熱く語って頂きます。お手持ちの本にサインをして頂けます。(事前予約して下さい。)

平成24年度 福岡女子大学公開講座のご案内

「武者の世を切り開いた平清盛 ー史学・文学からの考察ー」

受講料2,000円(全5回)(高校生、本学学生無料) 13:30～15:00

回	日程	テーマ	講師
1	11/10(土)	「平氏政権とはいかなる性格のものか? ー武家政権誕生への道のりー」	渡邊 俊 (福岡女子大学講師)
2	11/17(土)	「平氏の滅亡と祈り ー政治と鎮魂との関係ー」	渡邊 俊 (福岡女子大学講師)
3	11/24(土)	「平家文化圏を考える1」	今井 明 (福岡女子大学教授)
4	12/1(土)	「平家文化圏を考える2」	今井 明 (福岡女子大学教授)
5	12/8(土)	「天草版平家物語を読み解く」	坂本 浩一 (福岡女子大学准教授)

《受講方法》 対象: 高校生以上、性別不問

■ハガキ、FAX、またはE-mailにて、受講講座名・住所・氏名・年齢・職業または高校名(学年)・電話番号を記入の上、右記へお申し込みください。申込受付者は全員受講できますので、受講票等の発送はいたしません。定員を設けている講座は先着順です。
■乳幼児と共にご参加の方は本センター職員までお問合せください。近隣の一時託児所の情報をご提供いたします。

「中国人講師による現代中国講座」

受講料無料 13:00～14:30

回	日程	テーマ	講師
1	11/15(木)	「中国現代文学と九州 ー郭沫若の例を中心にー」	武 継平 (福岡女子大学教授)
2	11/22(木)	「中国の人口政策とその問題点」	尹 豪 (福岡女子大学教授)
3	11/29(木)	「グローバル化時代における中国経済」	張 艶 (福岡女子大学准教授)

詳細はセンターまでお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先

福岡女子大学 地域連携センター 女性生涯学習研究部門

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1

TEL/FAX: 092-661-2728(直通)

TEL: 092-661-2411 FAX: 092-661-2420(代表)

E-mail: rcle@fwu.ac.jp URL: http://www.fwu.ac.jp/rcle/



周防阿弥陀寺

支部だより

毎年、各地域で支部総会が開催されます。今回は3支部の様子をご寄稿いただきました。

会員の皆様、どうぞ、お気軽に、お近くの支部会へご参加下さい。

(各支部連絡先は6面参照)

筑紫海会に思いを

近畿支部長

大木 峯子(大14理)

私が初めて筑紫海会近畿支部総会に参加したのは、'89年神戸ポートアイランドで開催された時でした。はじめて女専の大先輩方にお会いして、その存在感には圧倒されました。先輩方は凛とし素晴らしいオーラを放たれていたのです。その時、大学で教鞭を取られていた女専23文の西山美瑛子先生のお話を拝聴することができました。

☆ ☆
'01年神戸の「六甲荘」で友人と二人で総会の当番を務めました。その翌年は京都地区の当番で目加田先生をお招きして「京都花やしき浮船園」で開催し、例年より大勢の方々にご参加いただくことが出来ました。それまでは京都、奈良、神戸地区での総会当番でしたが、'06年からその時還暦を迎えた学年がお世話をする

☆ ☆
'95年阪神淡路大震災に見舞われた折、筑紫海会からお見舞いのお電話を受け、その後お見舞い金までいただきました。感激いたしました。私の住む神戸市西区は被害が少なかったとはいえ、水道が止まり、心の奥は不安と

山口支部総会を終えて

山口支部長

渡辺 恵子(大23被)

山口支部は県内を下関・宇部・山口・周南・岩国の5つのブロックに分け、地区ごとにブロック長を中心に活動しています。平成22年度に会則の改定を行い、2年ごとに持ち回りで、支部長・会計・広報を担当ブロックから選出することになりました。今年度は、山口ブロックの当番です。

☆ ☆
7月1日、本部より山本津弥子会長をお迎えし、会

員21名の出席にて総会を開催しました。会長は大きく様変わりした大学の様子とそれに伴い同窓会の役割にも変化が求められていることなどを分かりやすく、話されました。その後、森林セラピストの中沢妙子様による講演「秋吉台に魅せられて」秋吉台に年間300日以上通われています。花期の記録をされ、撮りためた写真のスライドで示しながら、野の花の魅力を教えていた



垣内さんの乾杯の音頭

☆ ☆
ことが決まりました。ちょうど私たちの学年で「琵琶湖ホテル」で開催しました。'09年京都の「がんこ高瀬川二条苑」の総会とき大52栄養の若い後輩が参加してくれました。大27被の現役の高校の先生の教え子で、支部総会での恩師との再会

☆ ☆
今年度は交通の便利な「ホテルグランピア大阪」で開催し、プロのシャンソン歌手「KOMI」さんを迎え、皆さんとシャンソンを楽しむことができました。有名

☆ ☆
が来ました。何事も続けることの大切さを痛感させられました。昼食後は、歴史の町防府をマイクロスパスで観光。毛利藩の公館で国指定の史跡「英雲荘」と、東大寺別院「阿弥陀寺」の二ヶ所。「阿弥陀寺」は、あじさい寺と親しく呼ばれており、本堂までの長い石段をちよつと盛り過ぎのあじさいを眺めながら、皆様健脚コース(?)で参拝。マイクロスパスの中でもおしゃべりに花が咲き、楽しいひとときを過ごしました。

☆ ☆
今回周りの方々のサポートで無事総会を終えることができました。



青木繁と佐賀

前佐賀支部長

築田 正子(大11国)

佐賀支部では、総会と親睦会(従来は日帰り旅行が主)を隔年で行い、総会の年に会報の発行と役員の交代をします。役員は学年による輪番制で、人数によって、単学年か複数学年で担当します。

☆ ☆
今年度は総会の年で、去る6月9日(土)、佐賀市の老舗旅館「あけぼの」において、30名の出席で開催しました。本部より山本会長が出席され、女子大の現況や、同窓会を活性化していく新しい企画等についてお話し下さいました。今年度は格別討議すべき提案もなく、規定通りの活動・会計報告・役員交代と滞りなく議事が終了した後、講演会に移りました。

☆ ☆
講演は「青木繁と佐賀」、講師の金子剛氏は、画家で青木繁(1882~1911)の研究者として知られます。青木繁は晩年佐賀に滞在しており、彼が描いたと見られる、その頃の恋人の肖像画が、昨年確認されています。こうした佐賀にまつわるエピソードを交え、同郷の久留米出身の画家坂本繁二郎と比較しながら、ユーモアあふれる語り口で、青木繁の人物像を生き生きと描き出して下さいました。講演の後、記念写真を撮って懇親会へ。

☆ ☆
佐賀支部では、80歳以上の出席者に記念品を贈呈しています。前回はレターセット、今回はガーゼのマフラーを4人の方に贈りました。最高齢の秀島さんが、お礼の言葉とともに、先輩とのつながりに助けられて頑張ることができたという思いを出されました。95歳とは思えない、はつきりとしてよく通る声で、滔々と話される姿はすばらしく、私たちも元気に年を重ねていきたいと励まされた気がしました。同窓会の良さは、こういうところにあるのではないかと感じました。



☆ ☆
佐賀支部の会員281名中、会費納入者3割、総会出席者1割。同窓会に関心の多い人が多くなっている今、多くの人を引き付けるにはどうすればよいのかが課題です。人と人との関わりが希薄になってきている今だからこそ、先輩から後輩へと続く絆を大切にしたいかと思っています。

学校法人筑紫海学園の解散に向けて
記念像除幕とその後

理事長 上村 元子(大6被)

今報では記念像除幕式とその後の解散に向けての取り組みをお知らせいたします。

除幕式については、本年2月に梶山学長より第1部で、福岡女子大学開学記念と同窓生のホームカミングデイを4月22日(日)に行うので、第2部として除幕式を行ってはどうかとのご提案をいただきました。法人理事会としては、早くから開学記念日に合わせて行いたいと、考えておりましたのでありがたうご配慮をお受けしました。ところがこの日は数日前から、雨または「春の嵐」との予報でした。当日は早朝から暗く雨、しかし、除幕の始まる12時頃は日射しが出て、絶好の除幕式日和となりました。



台座裏面

学校法人 筑紫海学園 だより

1部にご出席の麻生前知事、海老井副知事や県議のご臨席と共に80人余の同窓生、学生の皆さんの参列となりました。

初めに、私(上村)が記念像建立に至る経緯を述べ、除幕し立像の披露の後、梶山千里学長と制作者中村晋



学校法人 筑紫海学園 記念像除幕式記念 2012.4.22

幼稚園廃止許可(H24・3・31)後、4月5日に宮城県私立幼稚園連合会への備品(ピアノ3台を含む)を発送し、6月19日には福島県の幼稚園にも送り出しをしました。福島では園児の戸外活動が限られ、そのため室内教材のご要望に添うものでした。

次々と追われるように事項に対処してきましたが、次は福岡女子大学からの「土地賃貸者契約の解除」の期日が迫りつつあります。園舎を解体し、原状回復の上、土地を返還しなければなりません。期日は10月末までとされています。園舎を解体するには同窓会の事務局と学校法人筑紫海学園の事務局を移転しなければなりません。大学の近くに物件をさがしましたが、賃料、駐車場の件で難航しました。5月中旬になり再び、大学に貸して頂ける部屋をお願いをしたところ、数日後、図書館長室を貸しても良いとの返事を頂き、一挙解決しました。学校法人筑紫海学園はやがて解散しますので、大学との賃貸契約は同窓会筑紫海会名義とし、進めるようにしました。経費は応分に分担し、両事務局は7月3日に引っ越しを終了しております。したがって法人事務局は同窓会の事務局と同じ大学図書館内にあり、電話番号はこれまでの筑紫海会(092・671・6360)に統合されました。

6月に入り園舎の解体は3業者から見積りを取り、6月22日に業者決定をしました。

した。はからずも現在大学の体育館を解体している同一業者でした。7月23日、園舎解体の着工です。園舎解体を見守りながら、この後はいよいよ学校法人筑紫海学園の解散の手続きにはいります。8月中に県に書類提出し、認可は10月末の予定となっております。

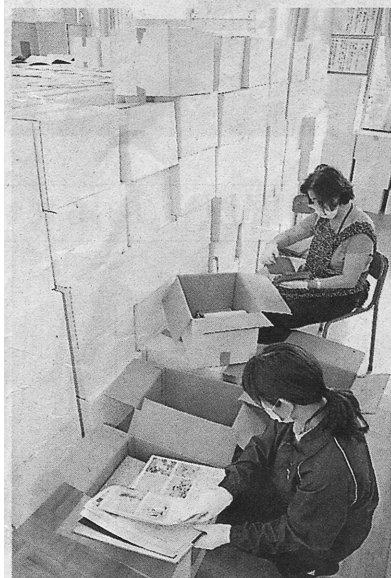
学校法人 筑紫海学園 平成23年度収支報告

(単位:円)

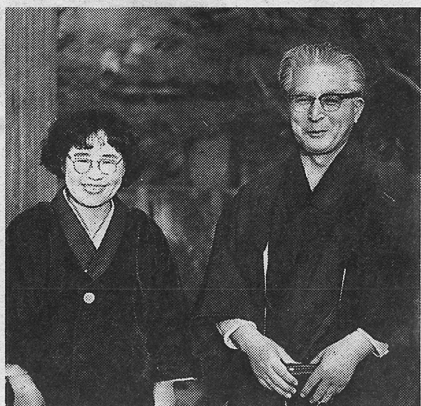
収入の部		支出の部	
項目	決算	項目	決算
保育料	9,569,000	人件費	56,890,790*
補助活動収入	1,405,627	一般管理費	19,089,881
補助金(県・市)	16,317,500	寄付金	10,000,000
受取利息	1,096,616	減価償却費	1,880,725
退職社員資金収入	7,564,300	記念像設置費用	22,197,000
雑収入	1,051,163	備品購入費用	87,800
土地売却代金	15,000,000	次年度繰越金	-58,141,991
計	52,004,206	計	52,004,205

*退職金を含む

宝の山、目加田文庫に光



段ボール約760箱に入った目加田誠、さくを夫妻の蔵書の一つ一つ丁寧に調べる職員たち



目加田誠、さくを夫妻

1万数千冊 研究者夫妻遺族が寄贈

中国文学研究の大家・目加田誠氏と、妻で日本古典文学研究者のさくを氏が残した蔵書1万数千冊について、遺族の寄贈を受けた大野城市が学術資料として整理し、夫妻の研究や生涯に触れられる目加田文庫としての活用を構想している。2人を知る専門家は「偉大な研究者の思考過程をたどれる」「古い資料も含まれ貴重」と宝の山に注目している。

大野城市が目録作成中

中国、日本古典文学 資料や原稿も

目加田誠氏は1904年生まれ、日本学士院会員で元九州大学名誉教授。中国の「詩経」の日本語訳を初めて完成するなど、中国文学の生き字引的存在だった。元号が「平成」に変わる際、内閣から新元号の考案を委嘱された一人。94年に90歳で死去。

さくを氏は17年生まれ、元福岡女子大学名誉教授。平安文学など日本古典文学が専門で、女性研究者の先駆的存在だった。2010年に93歳で亡くなるまで精力的に研究を続けた。

夫妻の自宅が大野城市にあり、故人の遺志もあつて昨年夏、自宅の蔵書や原稿類が市に寄贈された。今年3月、段ボール760箱の搬出が完了。現在、同市乙金台の大野東中学校の空き教室を使って、司書や古文書整理経験のある嘱託職員計6人がクリーニングや目録作成などを続けている。

今後、松崎治之・筑紫女学園大学名誉教授(中国文学)と、月野文子・福岡女子大学教授(和漢比較文学)の協力で精査。誠氏の教え子でもある松崎名譽教授(88は「中国文学を幅広く読み解いた第一人者。どんな資料を使っていたのか、興味深い」と期待している。

(井上真由美)

平成24.7.21付 西日本新聞より転載

在校生と交流しませんか
～かすみ祭(大学祭)に初参加～

手芸などの趣味の作品や寄贈図書の展示を行います。美味しいお茶も用意して、楽しみながら憩いのひと時を。懐かしい同窓生や在校生との語らいの場ができれば嬉しいな…。みなさまのお出でをお待ちしています。

☆出展作品や運営にご協力いただける方を募集中です。

日時 11月4日(日) 11時～15時
会場 D棟2階
申し込み 10月15日(月)まで
FAX・ハガキ・メールで事務局へ

あところに戻りませんか!



丸田先生の シェークスピア読書会探訪

毎月第2日曜日、JR春日駅前にあるクローバープラザで、丸田先生の読書会が開催されている。

この会は、16年間女子大で福岡先生の読書会として続けられていたのを引き継ぐ形で、2004年に始められた。

当日の出席者は12名、卒業生のご主人や卒業生以外の方も参加されていた。それは開催場所が公共の施設という利点ゆえであろう。何より感心させられたのは、お世話係の城戸恵子さん(大24英)による綿密な準備であった。作品中の言葉を理解し易いように、インターネットからその言葉



丸田先生と読書会のみなさん

を作り、災厄を神智による階層制への不信や羨望という狂気に帰して来た。巻き込まれる者の悲しみは、無力な悶えの彩りをなした。しかし、シェークスピアの世界はそれとは異なる。彼は、神話を信じる人々それぞれの見込み違いを、立場を異にする生活者が同じ法規を奉じて作る見えない相互誤解状態として描き分ける。だから、同じ過去を共有する僕等自身の眼の秘かな感覚異常と覚醒効果が真の主題なのだ。」とのことだ。

丸田先生いわく、『古来から人は、安定王朝を善とし争いを悪とする歴史神話

を生は、琴のサークルに入り、歌舞伎に興味を持ち、能を舞う。弓道は3段。よほど今どきの日本人より日本の伝統芸能に詳しい。「むずかしさを肌で感じるのが重要なこと」ということで「それを実践されることに、頭が下がる。」

日本が気に入る、ドイツと日本文化をつなぐ仕事をしたいと考え、日本在住17年。福岡に来て8年。福岡の魅力をお尋ねすると、「海ですね。海の中道の海岸線、そこへ自転車に乗って20分着くことに感動した」と、海のないボン出身の先生は答えられた。

(取材 Y・S)

スウェン・ホルスト先生

訪問記 (国際教養学科 准教授)



(46歳、すらりと187センチの長身。節電の暑い研究室に「麦茶でよろしいですか」のおもてなしの第一声。流暢な日本語、物腰やわらかな先生に、すっかり私たちはリラックスし、様々なお話を伺うことができた。

母校では、平成23年4月から、国際文理学部が開設されている。会報担当者は「日本語はおろか、能や弓道も究めるドイツ人の先生がいっぱいいる」という情報を得て、7月23日訪問のアポイントをとった。

スウェン・ホルスト先生

正しい敬語をあやつられる。そのはずである。先生はドイツの大学で日本学を専攻後、京都大学に留学。そこでの研究は幕末・明治の日本史を経て、近世(江戸)の歌舞伎。文献だけでなく何でも実践が信条の先

話を進むうちに、ドイツ人と日本人の思考の違いについて興味深い話が次々と



ホルスト先生の仕舞

出てくる。ルールを白黒はっきりして守るのがドイツ流、それに対して日本は「アバウト」であいまいなまま続

も観察すると、とても興味がある。中でも「好奇心」でプラス思考に変わるとの

最後に同窓生の私たちがどんなサポートが出来るかと尋ねると、「かすみ祭や学生たち運営の催しに参加し盛り上げて下さるとうれ



現在地に移転した頃の福岡女子大学

か。有名な松本清張の名作『点と線』(昭和32年)には、国鉄香椎駅は「うら寂しい、変化のない駅前の風景である」と描写されています。その後、香椎は福岡の東の副都心として発展し香椎駅も変貌しました。現駅舎は平成8年(1996年)に完成しました。

香椎駅から女子大まで急ぎ足で15分。帰省の折や北九州方面からの通学に利用した女子大生も多かったのではないでしょう

香椎今昔

福岡女子大学の所在地は香住ヶ丘1の1の1。大学は平成29年までに新キャンパスを整備する計画で、すでに建設に着手しています。各々の卒業生の思い出に残る「女専・女子大」も様々



現在のJR香椎駅



昭和30年代の国鉄香椎駅

です。昭和20年福岡空襲で天神の女専校舎が焼け、昭和26年(1951年)現在の地に移転後すでに61年。★ 今回から変貌を遂げた香椎近辺を取材しながら「香椎今昔」と題して掲載します。第1回は『国鉄(現JR)香椎駅』

ホストファミリー募集

同窓会の新しい取り組みとして、国際交流事業を行います。内容は、お正月に女子大在学の留学生を受け入れていただけるホストファミリーを募集するものです(お正月体験)。詳細は、下記のとおりです。

記

1 内 容

ホームステイの対象となる留学生は、学部・大学院留学生及びWJC留学生です。

出身国	中国、韓国、インドネシア、タイ、ベトナム、スリランカ、ベルギー、ドイツ、スウェーデン、デンマーク
募集地域	福岡市内 (大学近郊であれば、なお良)
人 数	15名程度予定
滞在期間	年末年始の3日間程度 (参考：H24年度実績12月31日～1月2日)

2 募集期間：平成24年11月15日(木)まで

3 申込方法：次の事項を明記の上、はがき、FAX、またはメールで事務局まで申し込みください。

○氏名(卒業回) ○住所 ○電話番号(FAX含む) ○家族構成
○ペットの有無及び種類 ○メールアドレス

4 注 意 点

- ① 家族の一員として受け入れていただくこと
- ② 受け入れに際して特別なことをする必要はありません。いつも通りのお正月をお過ごしください。
- ③ ボランティアとしての受け入れ(無償)
- ④ 大学が、留学生の人数、アレルギーの有無等を考慮し調整を行います。お申込みいただいた方全員に必ず受入をお願いするということではありませんのでご了承ください。
- ⑤ 問い合わせ：事務局 TEL(092)671-6360 FAX(092)692-9185 jimukyoku@tukusimikai.org